

1 第1回定例会  
編集委員会より  
2～6 各会派代表質疑

# 市議会だより

令和8年5月号

〒583-8585 羽曳野市誉田 4-1-1

羽曳野市議会事務局 Tel.072-958-1111

羽曳野市ウェブサイトからもご覧いただけます。

## 令和8年第1回定例会報告

### 「市長の施政方針に対する各会派代表質疑」

#### 第1回定例会

令和8年第1回定例会は、2月24日から3月30日までの35日間の会期で開催されました。今定例会では、令和8年度施政方針に対する5会派による代表質疑と、12名の議員による一般質問が行われ、市政のさまざまな課題について活発な議論が交わされました。

議案として、条例の一部改正、令和7年度一般会計および各特別会計の補正予算、令和8年度一般会計および各特別会計の当初予算など、市民生活に関わる重要な案件が審議されました。

また、防災対策や子育て支援、教育環境の充実、地域活性化、福祉施策の推進など幅広い分野について議論が行われ、市民の安全・安心な暮らしの実現と、将来を見据えた持続可能なまちづくりに向けた取組について、議会として多角的な視点から議論を深めました。

今月号では代表質疑の内容を中心に報告し、一般質問、各常任委員会の審査報告、審議された案件の議決結果等は6月号に掲載いたします。

#### 《市議会だより編集委員》

樽井 佳代子 麻野 彰子  
清水 ひでただ 阪倉 禎明  
まりやま 百合子 古澤 悟  
石田 幸平

#### ◆編集委員会より◆

令和8年第1回定例会が、3月30日に閉会しました。本定例会では、市長の施政方針に対する各会派からの代表質疑および一般質問を行い、次に上程された市民の暮らしに大きく関わる一般会計予算をはじめとする新年度各種予算案などが本議会や各種常任委員会において議論されました。

長引く円安や国際情勢の影響による物価高騰の継続に加え、日本銀行の政策転換から定着した金利上昇は、住宅ローンや生活資金など、私たちの暮らしに切実な変化をもたらしています。社会経済環境が激変し、先行きへの不安が広がる今こそ、身近な場所で市民の命と暮らしを守る基礎自治体が果たすべき役割は、かつてないほど重要になっています。

私たち市議会議員は、市民の皆さまの切実な「声」を届ける代弁者として、この変化の激しい時代に即した支援策や市政のあり方を厳しく、かつ前向きに提言しております。本誌では紙面の都合上、定例会における議論のごく一部の紹介となりますが、市民の皆さまの暮らしを支えるための議会の活動を報告いたします。

市議会の活動は、皆さまにとって身近であると同時に、さまざまな課題に向き合う重要な舞台でもあります。議会での議論や議決結果について、より詳しい情報を知りたい方は、市議会のウェブサイトにて録画映像や会議録をご覧いただけます。紙面ではすべてを紹介できませんが、スマートフォンからも閲覧可能ですので、ぜひ活用ください。

編集委員会一同、今後とも皆さまの声を反映させ、さらに身近に感じていただける紙面作りに努めてまいります。引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 通堂義弘（公明党）



《安全・安心でいきいきとした生活の実現より》

●**質疑** 当市として感震ブレーカーの普及に向けた助成は考えているのか。

●**市長** 本市では、国が定めた密集市街地には該当していない、市民の皆様には自助の観点から火災防止策に取り組んでいただけるよう、啓発活動を積極的に行っていく。

●**要望** 感震ブレーカーなどの普及で大規模地震が発生したときの焼失棟数を大幅に削減できると示された。当市においても感震ブレーカーの設置促進のための助成金の交付を要望する。

《くらしを支える基盤の整備より》

●**質疑** 白鳥通りの整備工事の無電柱化事業の目的、古市駅西側の開発事業に向けた都市計画・構想があったと思つが、どのようになったのか伺つ。駅前私有地の違法駐輪対策は考えているか伺つ。

●**市長** 大規模地震や台風等の激甚化、頻発化に伴う倒木や電柱の倒壊リスクに備え、緊急活動の円滑化を図る事を目的とし、景観の向上、通行の快適性、安全性の向上といった観点からも有効な事業である。自転車、バイクの違法駐輪について、地権者・地元区長の承諾を得た。新たに自転車禁止区域を指定の上、対策を強化する。古市駅前西地区については、市街地

再開発事業の決定に向け、準備組合が設立されたが、地権者の合意形成が進まず、都市計画決定には至っていない。古市駅前の再開発は、市民の利便性向上や地域の活力創出につながる重要な課題と認識しており、本市の玄関口としてふさわしい駅前環境を整備する必要がある。今後とも検討していく。

●**要望** 交通量も多い道路で渋滞が発生し、住宅地への迂回も多くなると予測される。小学校の通学路でもあるので、十分な安全対策を要望する。

《安全で安らぎのある生活の実現より》

●**質疑** 自主防災組織を支援する補助金事業があるが、防災士資格の取得費用を加えられないか伺つ。

●**市長** 防災士資格取得については、自主防災組織活動の充実のため、令和8年度から補助対象を考えている。

●**要望** 私用地内に放置されている自転車などについては、早急に対策の強化を要望する。

●**質疑** 地域未来交付金を活用した備蓄品の拡充について、災害時におけるトイレ、携帯トイレの備蓄、ペット同行避難の取組について。

●**市長** 自助の観点から最低3日分の簡易トイレや携帯トイレを自宅での備蓄を講演会や訓練などで伝えている。公助として避難者の健康面、衛生面から避難所の環境改善を図るため、水洗機能付組立て式トイレや簡易トイレの増加を進めている。ペット同行避難は動物愛護の観点から、飼い主がペットと共に安全な場所へ避難するためのペットの避難同行マニュアルを策定。マニュアルでは、原則として居住スペースと飼育スペースとを分けて管理。平時からのしつけの必要性を示し、トラブルを未然に防止

することとなる。より実効性のある同行避難体制を構築。

●**要望** 普通運転免許で4トントラックに乗せて運べる、水循環式自己完結型トイレの検討。携帯トイレの無償配布、また助成金の交付を要望する。

《支え合い助け合う社会の実現より》

●**質疑** 古市駅東広場の喫煙所の設置、胃がん検診、通所型サービス事業の拡充、介護保険サービス事業者に対する指導監督体制の強化について。

●**市長** 古市駅は多くの方が利用する本市の玄関口において、喫煙者とは喫煙者双方のニーズに応え、お互いにとって快適な環境を確保するため、駅東広場に設置の検討を開始する。胃内視鏡検査導入に当たり、国が示すがん予防重点教育及び、がん検診実施のための指針に基づき、対象年齢や実施方法の検討をし、対象年齢を50歳以上として実施する。通所型サービス事業の拡充は、フレイル状態にある高齢者に短期集中的なサービスを提供、地域の介護予防活動につなげ、自立した生活の継続を高齢者自らが実践することを目的とし、介護予防施策の重要な一つの柱として推進をする。介護保険サービス事業者に対する指導監督体制の強化は、要件を十分に理解していない事業者もあり、誤って介護報酬を支払われている可能性がある。運営指導を重点的にを行い、介護給付費の適正化を図れるよう、指導監督体制を強化する。

●**要望** 喫煙所の設置については、道路、通行動線から距離を取る様にし、完全分煙型を要望する。通所型サービスについては、リハビリ終了後の不安を抱える高齢者が利用しやすい様、対象者基準の柔軟化の検討を要望。

《羽曳野の宝を守り育むより》

●**質疑** (仮称)第4こども園、子育て支援員、スクリーニング・アセスメント、チーム担任制について、中央スポーツ公園のグラウンドの芝生化について伺つ。

●**市長** 近隣住民や町会への説明には、3月1日に西浦町会の役員会議に参加し説明した。子育て支援員について、令和8年度から、研修について大阪府が取りまとめる研修コースを活用する予定。チーム担任制について、実際に行うと好評の声が多く、今年3校が加わり、来年度も実施校が増える見込み。人工芝化は、雨天後すぐに活用でき、多目的に使用でき、稼働率の向上が見込まれる。利用者のけがの防止にもつながり、多くの市民に喜んでいただける施設となるよう取り組む。

●**要望** 次世代育成について、子育て支援員の保育士不足はすぐには解消されない。子育て支援員の募集は今後も増やすようお願いする。チーム担任制は今後さらに情報共有で、よりよいチーム担任制の構築をお願いする。人工芝生はデメリットを視野に入れ、グレードアップ化をお願いする。

《持続可能なまちづくりの推進力》

●**質疑** 道の駅「しろとりの郷・羽曳野」魅力向上について伺つ。

●**市長** 令和9年度に道の駅開場20周年を迎えるに当たり、道の駅を運営いただく指定管理者をはじめ様々な主体と連携、協働により、施設の魅力向上について検討していく。

●**要望** 以前のアジサイのように、見てよさが分かる取組を要望する。

笹井喜世子（日本共産党）



《公共施設のあり方と市民参加について》

●質疑 公共施設のあり方を検討する第2期アクションプラン策定は市内の検討委員会で策定となっているが、市民に深くかかわる施設であることから、市民の声を反映させる仕組み作りが必要。本市の重要施策や計画策定に、行政が民意の反映が必要と判断すれば付属機関への諮問・答申が設けられている。住民に密接にかかわる重要な施策には審議会や協議会などを設置し、市民参加の取組が必要だがその考えは。

●市長 人口減少が進むと推計される中で、公共施設の更新問題は将来世代に大きな財政負担を残すことになるため、計画的に取り組む必要がある。アクションプランの策定にあたっては、総務省が示す「公共施設総合管理計画の策定時に関する指針」に基づき改定作業を行う。市政への市民参画と公正な施策推進のためパブリックコメントを実施している。

●要望 この間の新庁舎建設計画にも第2アクションプランにも市民参画の仕組みはなく、行政が判断しないと市民参画の仕組みは作られない。パブリックコメントを実施しているが、その意見が政策決定に反映される余地はほとんどない。羽曳野市でも住民の

声が十分反映される仕組み作りのため「自治基本条例」の制定を強く要望。

●質疑 羽曳野市のこども園事業は公立の幼保連携型こども園として第3園まで進められたが（仮称）第4こども園は公私連携型認定こども園で民設民営である。子どもの権利を保障するためには、公的な責任において自治体はその役割を果たし、教育・保育の質の向上を保障することであり、それを手放すことは、自らの公的責任を放棄することにつながるが考えは。

●市長（仮称）第4こども園は公立園の統合園であり、民設民営への移行に市が一定関与することができるようになっている。これまでも公立・民間園が密に連携・協力し、公立民間の優劣は付けられない。第4こども園の事業手法は経費の試算や比較、サウンディング調査の実施で方針を決定した。

●要望 公的責任は民間と比較するものではない。第4園は公私連携と云うが民設民営のこども園である。公立園は市町村の保育義務を遂行し、保育の質に関する責任を自治体が直接持ち、安定した運営を行う役割を担っており、この役割こそ果たすべきことを要望。

《ICT教育と》

●質疑 ICT教育が導入され5年が経つが、子どもたちの学力や集中力、考える力がどのように変化してきたのか。また検証結果から見たICT導入についての考えは。また公立諸学校の規模や適正化計画の策定に向けて、審議会報告を地域で行い、児童・生徒や市民アンケートが実施

された。しかし学校の存続は地域の大きな関心事であり重要な問題であることから、十分時間を取り進めるべきだが、今後の取組や進め方の考えは。

●市長 ICT活用と学力調査の正答率には相関があり、国でも効果が強調されているに基づき、AIDリル等による学びと対話による学びを一体的に推進する。学校規模の適正化について審議会答申に基づき検討をすすめて、現段階は具体案の策定前段階だが、次年度より全庁的に連携し、将来推計や老朽化対策、通学路の安全性など踏まえ計画を策定していきたい。

●要望 当市でもさらに今後ICTの活用の取組がされるが、一方でICT教育による「集中力や考える力」の低下が危惧される報告もあり、子どもたちへ与える影響の検証を要望。学校の適正化については、アンケートで寄せられた意見を丁寧に取り上げ、計画策定は、意見聴取や議論ができる場を設けることを強く要望。

《自治体DXの推進について》

●質疑 DX化推進計画に基づき窓口DXを推進するため、業務の減少や効率化や、コスト削減することなどが、人的、財政的負担の軽減がどのように図られ、職員数への影響は。また基礎自治体機能を運営するための必要な数や職員配置の考えは。

●市長 DX推進で業務効率が進むことにより、運営に係るコストが削減される。効率化により職員数の見直しを行う可能性はあるが、人口が減少する中で、職員数が相当数減少することが想定されることから、基礎自治機能を効果的に運営できるように職員の配置を検討していく。

●要望 窓口DX推進で業務の効率化やコスト削減により、職員数を見直し、適正な定数管理を行うことは、人員削減の方向である。しかし自治体の仕事はデジタル化が進んでも、職員でなければできない市民との対面でサービスを提供することでDX推進で職員を減らすのではなく、職員でなければできない仕事に切り替え、住民のサービス向上に取り組むこと。また防災の観点からも災害時に機能が発揮できる職員数や職員配置の確保を強く要望。

《さらなる行政改革について》

●質疑 当市の財政の弾力性を示す経常収支比率は、非常に硬直した厳しい状況のことだが、今後の財政状況の見通しと考えは。また持続可能な行財政運営のため、更なる行財政改革の推進する重点は。

●市長 財政見直しは市税収の伸び悩み、扶助費の増加などで厳しい財政状況が見込まれ、施策や事業をゼロベースで見直し優先度を見極め、事業の選択と集中を強力に進める。改革の重点はこれまでの慣習にとらわれず新しい発想でスピード感を意識し取り組む。

●要望 当市の財政状況は、令和11年度では39億1,400万円の赤字見通しで、今後給食センターやこども園の新設、さらに新庁舎整備のための公債費が大きな財政負担となってくる。しかし今年度の行政改革は「第4こども園」の民設民営化、公共施設の総量を減らす見直しや、水道料金など各種料金を値上げするという受益者負担が進められ、今の物価高騰で苦しむ市民の生活に寄り添うものではない。独断専行ですすめてきた多額な新庁舎整備費負担を市民に押しつけることなく、市民ニーズにこたえる行政運営を強く求める。

百谷孝浩（大阪維新の会）



《安全・安心でいきいきとした生活の実現》から

●質疑 どのような新技術を導入して、インフラ管理体制を構築するのか。

●市長 下水道調査にドローンカメラ導入と官民連携でウォータージャーナルを導入を推進する。

●要望 官民連携と新技術導入により、下水道の持続可能な維持管理と将来負担の軽減を要望。

●質疑 重層的支援体制の整備をどのように市内外と連携し、支援体制を定着させて相談体制を構築していくのか。

●市長 全庁的に重層推進員配置で包括的支援体制を強化し、共有対応する。

●要望 誰もが迷わず相談できる入口整備と、支援者が孤立しない重層的支援体制の充実を要望。

《次代につなぐ選ばれる羽曳野の未来創生》から

●質疑 税収確保の観点から企業誘致は重要。企業立地制度の方向性は。

●市長 企業立地促進へ、新規条例の年内制定を目指す。

●要望 本市の特性を活かした企業誘致戦略を明確にし、雇用創出と地域経済活性化を要望。

●質疑 公共施設再編と受益者負担見直しを含めた行財政運営をどう進めるか。

●市長 人口減少するなかで、施設適正化と受益者負担の適正化を検討する。

●要望 負担の公平性と丁寧な説明を重視し、将来世代に責任ある持続可能

な行財政改革を要望。

《くらしを支える基盤の整備》から

●質疑 (仮称) 丹下ちびっこ広場にどんな機能を備え、地域と連携した、一時避難場所として整備するのか。

●市長 防災機能を備えた広場整備として地域連携を推進する。

●要望 地域と連携した運用体制を整え、防災と交流の拠点となる居場所の広場整備の推進を要望。

●質疑 農業振興地域整備計画の改定で優良農地の確保・保全と担い手確保農業活性化をどのように進めるのか。

●市長 特産品の苗木購入と就農支援を実施する。

●要望 販路拡大や担い手育成を進め、守る農業から稼げる農業への転換を図り、若手就農者の定着を要望。

●質疑 古市駅西側の交通混雑の課題解決に向けて、どう検討するのか。

●市長 駅西側駐車場活用と関係機関連携で混雑緩和対策を推進する。

●要望 古市駅西側の交通混雑解消に向け、関係機関と協議を重ね、古市駅前開発に向けて検証し、対策を要望。

●質疑 都市計画マスタープラン改定と併せて、市街化調整区域の提案基準をどのような趣旨で見直すのか。

●市長 調整区域に新たな提案基準で土地利用を促進し、指定沿道で事務所・倉庫設置を条件付きで可能になる。

●要望 市街化調整区域の新提案基準策定で、企業立地制度とも整合性を取り、計画的な土地利用と地域活性化を要望。

●質疑 市営向野南住宅の安全対策と、今後の方向性はどのように検討するか。

●市長 法定年限を迎えるため転居誘導し、地域のまちづくりを推進する。

●要望 入居者の生活に配慮した丁寧な転居支援と、跡地の有効活用を要望。

●質疑 《安全で安らぎのある生活の実現》から 災害時のペット同行避難実施

の避難所受入体制と運用方法は。

●市長 ペット飼育スペースと人の居住スペースを分け、対応方法の周知や物資の整理、関係機関との連携に取り組む。

●要望 避難所開設運営マニュアルと連動したものを作成し、ペット同行避難の受入体制整備の強化を要望。

●質疑 恵我之荘コミュニティセンター職員配置と地域活動活性化の方策は。

●市長 職員常駐で地域交流拠点として活用推進する。

●要望 多世代が集える地域交流拠点の居場所としての活用推進を要望。

●質疑 古市駅東側広場に喫煙所を設置する目的と期待される効果は。

●市長 受動喫煙防止や環境美化のために設置し健康被害防止等に期待する。

●要望 受動喫煙防止と環境美化の観点から、喫煙者と非喫煙者の双方が快適に過ごせる喫煙所の環境整備を要望。

《羽曳野の宝を守り育む》から

●質疑 府内初の小児神経科医巡回による発達障害のスクリーニングを小学2年生と5年生への導入経緯と事業効果は。

●市長 支援教育の組織的対応力底上げで切れ目ない支援強化が期待できる。

●要望 早期発見・早期支援の体制を強化し、切れ目ない支援を要望。

●質疑 学校運営協議会の人選方針と多様性および実効性の確保方法は。

●市長 設置規則で校長が人選し、多様な構成で協議会の実効性を確保。

●要望 学校現場の負担軽減配慮と、学校と地域が目標を共有した学校づくりの学校運営協議会の定着を要望。

●質疑 公立諸学校の規模・配置適正化計画策定のプロセスと将来像は。

●市長 数年かけて市民意見を踏まえ、教育委員会がまとめて計画策定する。

●要望 教育改革審議会の答申を踏まえ、学級数や教職員体制、通学路等を総合的に検討し、子ども達にとって最善の教育環境を第一に計画策定を要望。

●質疑 教育研究所を西浦幼稚園跡地へ移転する目的と本来の役割は。

●市長 スペース確保で様々な体験と、心身両面に効果が期待でき、不登校支援や教科書センター機能の役割がある。

●要望 学校との連携強化と、更なる不登校支援や教育相談機能の充実を図り、社会的自立へ繋げる運営を要望。

《持続可能なまちづくりへの推進力》から

●質疑 大屋根リング木材リユース検討の経緯と新庁舎での活用方法は。

●市長 基本設計者より提案で、家具への再加工を想定している。

●要望 万博レガシーとして、環境配慮と実用性を発信する庁舎整備を要望。

●質疑 道の駅の更なる魅力向上の方向性と地域経済・観光への波及効果は。

●市長 関係団体と連携で魅力発信や誘客、販路拡大等、相乗効果を図る。

●要望 道の駅の魅力向上を図り、ふるさと納税を提案。観光振興と地域経済のさらなる活性化を要望。

《その他の質疑》

●総合戦略の推進について

●行政DXについて

●充電式電池を含む小型家電製品の回収BOXについて

●通所型サービス事業拡充について

●子育て支援員について

花川雅昭 (市民クラブ)



《市政運営全般について》

●質疑 就任して6年目を迎え、これまでの施策の総括とこれからの羽曳野未来創生の骨格と基礎概念について。

●市長 これまでの前例にとらわれることなく、スピード感を持って果敢に挑戦してきた。子ども・子育て、保育施策や地域資源を活用する施策は、重点的に進めたことで、少しずつ実が結び始め、市民にも実感していただいている。歴史や文化、豊かな自然や特産品など、当市が持つポテンシャルが新たな未来を築く町を目指していきたい。

●要望 未来創生に向けてのスピード感と歴史文化の位置づけは評価する。子育てや教育の支援策は、多くの保護者間で評価されている。子育てや教育に関わる施策の充実を強く要望する。

●質疑 令和8年度の当初予算の編成における主眼について。

●市長 人口減少による市税収入の伸び悩み、高齢化社会の扶助費の増加など厳しい財政状況が続く。限りある財源の中で施策や事業の選択と集中を進め、持続可能な行財政運営を実現する。

●要望 質の高い行政サービスを安定的に提供することは行政としての義務。社会経済情勢の変化に対応する強靱な財政構造を大いに期待する。

●質疑

理想の職員像について。

●市長 羽曳野を愛し、市民に信頼され、将来を見据え、自ら考え行動する。行政のプロフェッショナルとして、課題を発見し、分析し、解決、協働するような職員が理想の職員像と考える。

●要望 職員の人材育成には、これまで以上のスキームを確立することが課題であり、人口減少やDXの推進に伴う適正運営を大いに期待する。

●質疑 今まで先延ばしされ山積している課題の解決について。

●市長 多額の費用を要する施設整備実現に向け、時期を逸することなく決断してきた。念願の給食センターの供用開始。市役所本庁舎は魅力的な市のランドマークとしての建て替え整備を進めている。DXや業務改革を推進し、効率化、高度化を図り、持続的に市民サービスの提供を行い、施設のダウンサイジングや集約化など抜本的な見直しによる施設の最適化が課題である。

●要望 多額の事業費が必要な施策については、パブリックコメントや市民アンケートなど適切な対応を堅実に進められている。今後、数々の課題に対し、財政状況と市民目線を基軸に事業の推進をお願いする。

●質疑 国政選挙の結果から、維新の会の首長として、そして羽曳野市のかじ取り役としての見解と抱負について。

●市長 自民党と日本維新の会の議席を大きく伸ばすこととなり、本市としては、国、府、市の連携がスムーズになることで重点施策が具体的に前進する好機であると期待をしている。

●要望 国政とのパイプが太くなり、多くの課題解決と事業の推進、新規事業の創出など、大いに期待する。

●質疑 新しい都市基盤整備や将来の都市構想ビジョンについて。

●市長 道路ネットワークの充実により周辺都市との連携や都市機能の集積を強化する。また戦略的な視点で都市機能の誘導や適切な公共施設等の配置、企業立地など、人口構造の変化に対応した都市空間の構築に取り組んでいく。

●要望 広域的な道路ネットワークの整備の必要性を訴える。市民の方が豊かな暮らしを実現する都市羽曳野実現に向け、邁進することをお願いする。

《安全で安らぎのある生活の実現について》

●質疑 市民を災害から守るための行政施策と情報共有体制について。

●市長 避難所の環境改善として、体育館の空調設備の導入、大型防災備蓄倉庫や避難所防災倉庫の整備、民間事業者や医療関係機関との災害時応援協定など連携強化を迅速で的確に対策できるように備えている。また、本市が発表する避難情報を入力する方法も含め、広報紙やSNS、地域防災講演会などでお伝えする。市民の皆様

●要望 市民の生命を守るため、スピード感を持つ対応はとて評価する。防災施策の充実と体制強化を要望する。

《支え合い助け合い》

●質疑 希薄化する地域社会での福祉施策の拡充と介護支援について。

●市長 地域住民が安心して住み慣れた場所で自分らしい生活を送れるような介護予防施策の強化を図り、地域共生社会の実現に積極的に取り組む。

●要望 これからも市民の地域共生社会への実現の推進を強く要望する。

《羽曳野の宝を守り育むについて》

●質疑 全国学力・学習状況調査結果から見る学校教育とICT環境下での子どもらしさについて。

●市長 調査結果から、児童・生徒の自己肯定感が年々向上している。体づくりや、教員を増やしての教科担任制など、学習環境を充実させてきた成果が現れた。また子どもらしさは、未知の事象に目を輝かせ、仲間と協力して答えを探る心の躍動そのものである。ICTは発見などに心震わせる主体的な学びを引き出す道具と考える。

●要望 ICT環境下での実体験とデジタルを組み合わせ、子どもたちの好奇心や探究心が芽生え、それらを受け入れできる教育環境の充実を要望する。

《持続可能なまちづくりへの推進力について》

●質疑 行政におけるICT環境でのデジタルテクノロジの普及とコミュニケーション。そして未来創生に向けてのさらなる魅力向上の取り組みについて。

●市長 デジタル化により効果的なサービス提供できるものは、抜本的に見直し、結果的に市民にとって利便性の高いサービスを実現する。今後、直面するあらゆる場面で行財政改革を推進し、持続可能な地域社会を創造する。私が思い描く市の将来像をしっかりと認識し、未来を切り開く、みんなの思いが形になる、どんどんよくなる羽曳野市の実現に向け進めていく。

●要望 行政並び市民生活でICT環境が進化する中で、市民サービスの向上を要望する。答弁から、豊かな地域資源を生かしたまちづくりへの強い意気込みを感じた。

## 阪倉禎明

(自由民主党・もつと羽曳野議員団)



《恵我ノ荘駅前・郡戸大堀線》

整備について》

●**質疑** 恵我ノ荘駅前広場の整備と郡戸大堀線全線開通に向けた用地買収及び工事着手の見通しについて伺う。

●**市長** 駅前南側広場はこれまで取得した土地取得特会から買戻し完了次第、工事に着手する予定。郡戸大堀線は残る用地買収を進め土地の取得が出来次第工事に入る。

●**要望** 本事業は長年地域住民が待ち望んでいる最優先課題である。用地取得において地権者の方々への誠実かつ粘り強い交渉に全力を注いで頂くよう要望する。

《ハザードマップの有効活用について》

●**質疑** ハザードマップはどのように改訂されるのか。

●**市長** 令和8年度のハザードマップは外水及び内水氾濫による浸水想定状況を見開きページで掲載する。

●**要望** ハザードマップを活用した町会単位でのワークショップなど、市民が避難行動を具体的にイメージできる施策を強く要望する。

《防災備蓄について》

●**質疑** 防災備蓄品はどのように拡充されているのか。

●**市長** 避難所のプライバシーの確保や感染症対策のため簡易間仕切り、折りたたみベッドを各240台購入。

●**要望** 避難所では口腔ケアを徹底することが感染症予防、関連死を防ぐ上で重要である。今後、断水でも使用可能な液体歯磨きや口腔ケア用品の備蓄品の拡充を強く要望する。

《リチウムイオン電池の回収について》

●**質疑** 小型家電回収ボックス設置による資源化促進とリチウムイオン電池等の対策について伺う。

●**市長** 市内の3箇所に回収ボックスを設置し、適切な処理を推進していく。

●**要望** ごみ収集車、処理施設の火災が増加している。火災予防、リサイクルの観点から更なる回収拠点拡充を要望する。

《独居高齢者、認知症支援の強化について》

●**質疑** 第10期高齢者いきいき計画等における認知症支援の強化について伺う。

●**市長** 認知症地域支援推進員・認知症初期集中支援チームを配置し、認知症予防を進めていく。

●**要望** 今後30年で高齢者の3人に1人が認知症患者及び予備群になり、介護保険料も30年後には6,000円から15,000円になると予測されている。この危機を回避するため発症を遅らせる『予防策』に予算と知恵を重点的に投入するよう要望する。

《学校給食について》

●**質疑** 小学校給食費の無償化を今後も恒久的に維持し、中学校へ拡大していくための決意を伺う。

●**市長** 小学校給食費は国から児童一人当たり月5,200円が交付される。不足分は市が負担し来年度より小学校給食完全無償化を実施予定。中学校においては国政における3党合意の趣旨に対し、早期実現に向け働きかけていく。

●**要望** 国や府の動向を待つという受け身の姿勢ではなく、本市が独自に小中学校の給食費完全無償化の旗印を早期に掲げることこそ、子育て世代の流入を促す最大の呼び水となる。早期実現を強く要望する。

《市役所・新庁舎整備について》

●**質疑** 新庁舎整備において、万博の大屋根リング木材をリユースする計画が進められているがこの取組みについて伺う。

●**市長** 無償で譲渡を受ける予定であるため、材料費はかからない。設置後も低コストで長期間利用できるような適切な維持管理に努めていく。

●**要望** 建設費が当初計画から大幅に増額されている現状に対し、市民から不安や懸念の声が寄せられていることを重く受け止めなければならぬ。北海道八雲町では資材高騰による大幅な予算超過に対し、将来にわたる町民の負担を看過できないとし、

設計を白紙に戻し、再設計を行う決断を下した。本市においても社会情勢の変化に伴う増額をそのまま追認するのではなく、デザイン、意匠や規模、素材選びに至るまで、いま一度コストカットを図ることを求める。天然木材は将来的に定期的な塗装や修繕といったランニングコストを継続的に発生させる。数十年後の維持管理費が市民の負担を圧迫しないよう実効性のあるメンテナンス計画の実行を求める。一度決めたから進むのではなく、市民のために最善の判断を下す。市民の大切な血税が投入される事業だからこそ、コスト意識と必要であれば計画を見直す柔軟な姿勢をもって事業に望むことを切に要望する。

《その他の質疑》

●**羽曳が丘西65号線整備について**  
●**西浦受水場の設備更新効果と将来的な水道料金の適正化について**  
●**丹下ちびっこ広場の一時避難場所としての機能分担と維持管理について**  
●**がん検診の拡充について**  
●**障害者支援について**  
●**就学前教育の再編、3歳児保育の質的担保について**  
●**歴史資産の観光活用について**(峰塚公園管理棟の歴史資料館化)  
●**ふるさと納税の戦略について**  
●**窓口改革とDXについて**(書かない窓口導入による市民の待ち時間削減と事務効率化の目標)